

令和3年度
学校関係者評価報告書

令和4年4月
学校法人すみれ学園
四国医療福祉専門学校

1 学校関係者評価委員

委員

- 野崎 泰博 委員長(元高等学校校長)
山口 吉英 委員 (特別養護老人ホーム愛生苑 施設長)
山田 能之 委員 (医療法人社団叶夢会 やまだ歯科クリニック 事務長)
小野 茂男 委員 (医療法人社団海部医院 透析室室長)
神原 良宏 委員 (本校卒業生)
筒井 眞美 委員 (本校在校生保護者)

学校

- 森 國夫 (校長)
小西 明弘 (事務課長)
鎌田 綱 (介護福祉学科専門課長)
定木 啓至 (医療事務学科学科長)
西岡 幹人 (臨床工学学科学科長)
水井 資道 (広報課長) (計12名)

事務局

- 小西 明弘(事務課長)、水井 資道(広報課長)

2 学校関係者評価の実施方法、公表

学校関係者評価の実施にあたっては、学校関係者評価委員に自己点検評価の結果を各担当者より説明し、評価結果についてご意見をいただきました。いただいたご意見を本報告書の中に取りまとめ、今後の教育活動や学校運営の改善に活かし、教育の向上に努めることとし、ホームページに公表致します。

3 学校関係者評価委員会 開催日時

令和4年3月26日(土曜日) 10時05分～11時45分 本校1階大会議室

- 1.校長挨拶及び趣旨説明 森 國夫校長
- 2.学校関係者評価委員紹介 事務局
- 3.学校関係者紹介 事務局
- 4.自己評価概要説明
- 5.意見交換

自己点検評価の説明について、質疑応答や改善点の提案等について意見交換(別紙参照)

- 6.閉 会

発言者	内容
山口委員	<p>教育の質の担保の為には多岐に渡ることを行わなければならないと思うが、アンガーマネジメントに関する研修なども含め、多岐に渡る取り組みを行いながら、課題に取り組んでいると感じた。今後の課題として、オンライン授業を挙げていたが、どのような取組を考えているか。</p>
水井課長	<p>オンライン授業については Zoom アプリを用いて行っていくことになると思うが、新型コロナウイルス感染症の影響により、休校期間があったものの、結果的に対面型授業を実施することで授業時間を確保することが出来てきたことや実技授業が多いことから、これまでに全面的なオンライン授業を実施したことはないのが現状である。その為の実施に向けた課題は多いと感じている。例えばオンライン授業用の資料作成や zoom アプリの使用に慣れていない職員もいる。第7波、第8波に備えて、平常時から準備を行っていくことが必要であると認識している。</p>
山口委員	<p>新型コロナウイルス感染症が収まっても、コロナ禍前に戻るのではなく、さまざまなことがオンライン化されていくと思われるので、対応が必要と感じる。</p> <p>次に外国人留学生についてお話したい。当施設でも外国人の方を介護スタッフとして雇用したことで良い影響が出ている。例えば外国人の方は強い覚悟を持って仕事をしてくれており、それが日本人スタッフにも伝播し、モチベーションの向上につながっている。ぜひ当校の介護福祉学科にも外国人留学生を受入れることを考えて欲しい。</p>
山田委員	<p>今年度の介護福祉士国家試験合格率について先ほど報告があった。当院では歯科衛生士を採用しており、同様に国家試験合格率を気にかけている。以前は、内定を出すと卒業前にアルバイトで来てもらっていたが、最近は県内の養成校でも国家試験不合格者が毎年出ているようで、学生に余裕がなくなっていると感じられる。また歯科医師の国家試験合格率も同様に65%程度だったものが、60%台前半となることもあり、資格取得が難しくなっているのではないかと感じている。</p> <p>また県内の歯科衛生士養成校の実習生を受入れているが、発達障害が疑われる方もいて、こちらの真意が伝わらないことも見受けられ、指導を行う上で工夫を重ねている。最近の若い方の傾向として感じるのは、「心」がないように思える方が多いことだ。仕事を覚えることや遠方まで研修に行くことは非常に熱心であるのだが、理念に共感したり、地域貢献に取り組もうとする気持ちが感じられないことがあるし、新卒から3年程度勤務して成長が感じられるようになってくると給与面を気にして転職していく姿を見ることがあり、非常に心を痛める。職業観を養う教育が必要ではないかと思う。</p>
小野委員	<p>最近の若い世代は、新卒の方も知識自体はあるのだが、現場で実務が出来ない方が多いと感じる。我々の仕事はミスをすると患者さんの命を奪ってしまう可能性があるが、インシデントを起こした際にも言い訳をして、報告書を提出すれば、本人の中で片付いたことになっているように感じられ、職業倫理に欠けているのではないかと思わざるを得ないことがある。</p> <p>自分自身もこれまでの長いキャリアの中で、「もっと患者さんに対してこうしていれば」と後悔したことは数え切れないが、我々は患者さんが1日でも長く生きる為にどうすれば良いのかという観点が必要ではないかと思う。何の為に仕事を行っているのか考えて欲しい。</p>

<p>神原委員</p>	<p>介護福祉学科では、コロナ禍の中で現場実習が難しい場合は、学内での実習に変更したとのことだったが、現場で学べることは多いので、出来る限りは現場実習をさせてやりたいと感じる。また、なかなか難しい部分もあると思うのだが、目的意識を持って入学することがとても大切だと思う。年に数回、当校の介護福祉学科に非常勤講師という立場で講義を行っているが、意識が低いと感じる学生が見受けられる。介護福祉士は利用者様の生活を支える仕事であり、知らないから出来ないという言い訳は出来ないと伝えさせてもらっている。学校自体の取組は評価出来ると考えているので、学生たちがさらに目的意識を持ってくれるようにサポートすることが大切ではないか。</p>
<p>筒井委員</p>	<p>学校の取組は評価させていただいている。出身高校に卒業報告を行っているを知り、良い取り組みだと感じる。さらに発展させる為には卒業生が出前授業に同行するなどの取組を行ってはどうか。</p> <p>また臨床工学学科の授業を youtube 上で公開し、学生たちの学習に活用されていたと思うが、QRコードなどを活用して、もう少し見やすくなるように工夫してほしい。</p> <p>最後にオープンキャンパス開催しているのをしばしば見かけるが、校舎が奥まった所にあり、開催していることが分かりにくいのではないかとと思われるので工夫してほしい。</p>
<p>野崎委員長</p>	<p>昨年と比べて、各委員からの提言は胸に刺さるものが多く、今後の学校運営のヒントになったのではないと思う。どのような学生を育てていくのかを考える上で、各委員からの意見を参考にしたいと思う。</p>
<p>森校長</p>	<p>今年度、学生から学生生活に関するアンケートを取得すると、特に上級生からは厳しい意見を寄せられるもあった。学生たちを一括して指導するのではなく、各学生にあわせた指導が必要であると改めて認識させられた。</p> <p>提言の中でも触れられた職業観に関することは、これまでも現場経験がある各教員から繰り返し話してきたことであるが、これまで以上に学生たちに伝えていく必要があると考えさせられた。大変貴重な意見をいただいたことを感謝すると共に、次年度に活かしていきたいと考えている。</p>